

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
第 3 期中期計画フォローアップ (令和 3 年度実績)  
【科学技術イノベーション政策研究センター (SciREX センター)】

2022.5.12

## 1. 令和 3 年度における活動の概要

### (総括)

令和 3 年度において、①人材育成に関し、コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、行政官研修を実施した。②研究・基盤に関し、共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、共進化実現ステージのプロジェクト 9 件、準備ステージのプロジェクト 5 件の推進支援等を行った。③共進化に関しては、行政官研修の実施、共進化実現プログラムの運営等に加え、共進化方法論に関する調査研究を実施した。また、④ネットワーキングに関しては、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業運営委員会(以下、「運営委員会」という。)を文部科学省とともに計 3 回開催、各拠点の協力を得たサマーキャンプの実施、SciREX セミナーの開催、オープンフォーラムの開催、政策リエゾンの活用、SciREX 事業の活動や成果に関する広報を行った。

### ①人材育成

#### (活動の概要)

・コアカリキュラム編集委員会の事務局を務め、編集委員会規定の整備や編集委員長の設置、事業第三期前半 2 年の活動スケジュールの作成等を支援した。主な活動は以下のとおり。①編集委員会(6月14日)及び同WG(8月16日)を開催するとともに、各会の事前調整のため、一部委員による小規模会合(8月5日、9月6日)を開催した。②新規コンテンツ 4 件の原稿執筆依頼、ISBN の取得、DOI の取得準備、コアコンテンツの外注による英訳作業を進めた。③コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方を編集委員会で検討するため、各拠点におけるコアコンテンツの活用状況の調査を行った。④令和 4 年度の各拠点教育プログラムの授業での活用と教員、学生へのアンケート実施に向けた準備の支援を行った。

・行政官研修(座学 1 月 13 日、1 月 19 日、演習 1 月 25 日、2 月 3 日、2 月 14 日)を各拠点等の協力を得て文部科学省とともに実施し、行政官 21 名が修了した。

#### (KPI の達成状況)

・編集委員会 1 回(6月14日)、同WG 1 回(8月16日)、小規模会合 2 回(8月5日、9月6日) [計画: コアカリキュラム編集委員会及び同WG 開催回数: 3 回程度]

・行政官研修の修了者数: 21 名 [計画: 行政官研修の履修者数: 15 名程度]

## ②研究・基盤

(活動の概要)

・共進化実現プログラムの運営を文部科学省とともに担当し、共進化実現ステージのプロジェクト 9 件、準備ステージのプロジェクト 5 件の推進支援を行った。主な活動は、①キックオフミーティング開催支援 (5 月 25 日、6 月 3 日)、②第 1 回アドバイザー委員と PJ との意見交換会の運営支援 (6 月～7 月、計 14 回)、③第 2 回アドバイザー委員と PJ との意見交換会の運営 (11 月、計 14 回) 及び PJ へのフィードバック支援、④成果報告会の運営 (3 月 15 日、3 月 23 日)、⑤計画書や報告書等の各種様式の作成支援である。

・センターの研究者を代表とする共進化実現プロジェクト 2 件 (池内健太センター特任フェローを代表者とする共進化実現ステージの「科学技術・イノベーション政策の経済社会効果分析の政策形成プロセスへの実装」プロジェクト、大山達雄政策研究大学院大学 名誉教授を代表者とする共進化準備ステージの「研究業績の評価に基づく資源配分効果の動態的特性分析のための基礎研究」プロジェクト) を実施した。また、センター専門職がこれらのプロジェクト及び GiST 教員を研究代表者とする共進化実現プロジェクトの実施に参画した。

(KPI の達成状況)

・共進化実現プログラムにおいて、実現ステージ 9 件、準備ステージ 5 件のプロジェクトを担当 [計画: 共進化実現プロジェクト件数: (実現ステージ) 9 件、(準備ステージ) 5 件]

## ③共進化

(活動の概要)

(①の行政官研修の記載参照)

(②の共進化実現プログラムの運営の記載参照)

・行政官と研究者を中心とする議論の場として、文部科学省と連携しブラウンバッグセミナーを開催し、行政官の政策ニーズの把握や新規課題の発掘などを行った。

・共進化方法論に関する調査研究を委託調査も活用しつつ実施し、その進捗状況等を運営委員会等で説明した。また、共進化実現プログラム (第三フェーズ) に関する提案を文部科学省に行った。

(KPI の達成状況)

(再掲分は①②の記載参照)

・共進化方法論の調査の進捗状況を取りまとめ、運営委員会等で報告した。 [計画: 共進化方法論の報告書のとりまとめ]

#### ④ ネットワーキング

(活動の概要)

・文部科学省及び SciREX 事業を実施する各拠点・関係機関の実務責任者からなり各拠点・関係機関の取組や役割分担の検討・調整、事業全体についての情報共有等を行う運営委員会を文部科学省とともに計 3 回 (6 月 14 日、11 月 1 日、1 月 24 日) 開催した。

・各拠点の協力を得て、新型コロナウイルス感染症の流行もありオンライン形式により、9 月 3 日 (金) ~9 月 5 日 (日) に各拠点の学生及び拠点の教員等が参加するサマーキャンプを実施した。

・SciREX 事業関連のプロジェクトの成果や進捗報告を題材に、政策担当者、研究者及び関係者が率直な議論を行える場である SciREX セミナーをウェビナー形式で 7 回開催した。

・SciREX 事業の取組、成果を発信するとともに、STI 政策の課題をオープンに議論し、課題に対する認識の向上、ニーズの把握等を目的として、一連の計 4 回のウェビナーからなるオープンフォーラムを開催した。全体テーマの設定と拠点等への企画募集・調整を行うとともに、4 回のうち 3 回を GRIPS において企画した (1 回は東大 STIG の企画)。

・政策リエゾン制度を維持し、サマーキャンプや行政官研修の講師、コアコンテンツのレビュー、共進化実現プロジェクトの推進、セミナーの企画等で リエゾンを活用した。

・SciREX 事業の活動や成果に関する情報をウェブサイト、広報媒体(4 号発行)を通じて発信した。

(KPI の達成状況)

・運営委員会の開催回数：3 回 (6 月 14 日 (月)、11 月 1 日 (月)、1 月 24 日 (月)) [計画：運営委員会の開催回数：3 回]

・サマーキャンプへの参加学生数：53 名 [計画：50 名以上]

・SciREX セミナーの開催回数：7 回 [計画：4 回程度]

・オープンフォーラム開催回数：1 回 (一連のウェブイベントを 1 回とカウント) [計画：1 回]

・政策リエゾンの委嘱総数：33 名 (年度末の委嘱数) [計画：30 名程度]

#### ⑤ その他特記事項

特になし。

## 2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

事業終了後を見据えた計画に対する対応として、以下の活動を行った。

- ①事業終了後を見据えた各大学の取り組みに係る情報を共有するため、11月1日開催の運営委員会において、各拠点の第3期中期計画素案を分析した資料「人材育成・基盤研究拠点の第3期中期計画（素案）で記載すべき事項の横並びの整理」、「KPIに関する分析」を作成・説明し、各拠点の取り組みを整理した情報の共有を図った。
- ②共進化方法論の調査の進捗状況をとりまとめ、運営委員会等で報告した。

### 3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし